

『中国传统节日故事』についての一考察

A Study of the Chinese traditional event

矢野 日出子

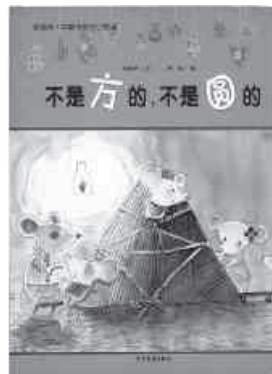
○はじめに

中国と日本の伝統行事には似通ったものが多い。日本の幼児教育の現場では、『こどもの日』『七夕』などは保育のカリキュラムに位置付けられ、幼児の成長発達を願う意味で欠かせない大切な行事である。

2013年に「彩絵本・中国传统节日故事『不是方的，不是圆的』」(郑 春华／文 陈 舒／图)(上海少年儿童出版社：2008／05第1版第一次印刷)という一冊の絵本に出会った。

この絵本は黄色を主体とした暖かい色調と鼠の一家を主人公に、粽を食する『端午節』の謂れを軸に物語が展開する。鼠の愛くるしい表情が微笑ましく、幼児が楽しく読みながら『端午節』の意味も知ることができるような絵本である。大まかな話の筋は

- ・鼠の一家が娟さんの屋根裏部屋に住んでいる
- ・毎日、台所から美味しそうな匂いがしてくる
- ・そうっと覗き見るとそれは四角でもなく丸くもない山のようなものの匂いだ
- ・お父さん鼠は見つからないように細い紐を括り付け、子どもたちのために持って帰ってきた
- ・中には何が入っているのだろうか？お米だ！お肉だ！粽って言うんだ。そうだッ、今日は端午の日だ



中国では自国の伝統行事を大切にし、この様に楽しい話を作り子どもたちに分かりやすく伝えようとしている。以下に一部抜粋してみる。

“你们知道吗？”鼠爹又得意起来，“昨天的香味是粽子的香味。”

“粽子？你是说那个不是圆的，也不是方的东西是粽子？”老鼠大宝抢着说。——中略——

“我全弄明白了，昨天是人类的端午节，小娟家包粽子吃，就是把米和肉，米和豆什么的包在粽叶里煮了吃。另外还做香袋……”

“香袋？”三只小老鼠一起问，“那东西好吃吗？”他们心想爸爸妈妈怎么也没有把粽子带回来！这回鼠娘神气起来，“就知道吃，香袋是用来驱虫的”

「みんな知ってるかい？」お父さん鼠は得意気に言いました。「昨日の匂いはだね、粽の匂いだよ。」

「ちまき？お父さんはあの丸くもなくって四角でもないのが『ちまき』だって言うの？」

一番大きな子鼠が意気込んで言いました。「父さんは全部分かったよ。昨日は人間の『端午の節句』なんだよ。娟さんの家でも粽を作って食べて、つまりお米とお肉と、お豆とぐつぐつ煮て葉っぱで包むんだ。それから匂い袋もつくるんだよ。」「匂い袋？それっておいしいの？」3匹の子鼠たちは同時に尋ねました。そして、父さん鼠と母さん鼠はどうして粽をもって帰らなかったかを聞きました。母さん鼠はキッパリと言いました：「あのね、食べれば分かるわ。匂い袋はね、虫を退治するのに使うのよ。」

鼠爹乐呵呵地说：“不管怎么说，我们昨天过了一个端午节。”小老鼠们说，“可惜我们只吃了粽子，没有做香袋！”鼠娘说，“今天补上还来得及。我已经会做香袋了！”“真的吗？”三只小老鼠高兴极了。

于是，鼠娘带着三个老鼠宝宝一起做香袋。鼠爹呢，他把做好的香袋像小娟家里那样也一串一串地挂起来。剩下的三串，分别挂在大宝，二宝，小宝的尾巴上。

这个人类的端午节，给老鼠一家也带来了巨大的快乐！

父さん鼠は笑って言いました。「何と言っても、我々は昨日、端午節を過ごしたんだ。」「でも私たち、粽を食っただけで香り袋は作ってないわ！」母さん鼠は「大丈夫よ。まだ間に合うわ。匂い袋を作ってあげる。」「ほんと？」3匹の子鼠たちは嬉しくてたまりません。

そしてみんなで作った3つの匂い袋を持ってきました。父さん鼠は、娟さんのおうちと同じように一つ一つぶら下げました。残った3つはお兄さん鼠、まん中兄さん鼠、ちびっこ鼠のしっぽにくっつけました。

この人間の「端午の節句」をお祝いする習慣は、ネズミさんの家族にも大きな幸せをもたら

しました。

㊦鼠の一家が人間の生活に憧れを感じている姿が微笑ましい。5匹の鼠、人間の娟さん、粽、匂い袋など「端午節」に纏わる習俗が楽しくカラフルに描かれている。旧暦のこの頃は、季節の変わり目で暑くなる時、体に変調を来しやすい時、虫の発生しやすい時等々、の意味がある。

また、『中国传统节日故事』（可南／文，马得 朱成 刘 大为等／图）という絵本に出会った。それは、①小年的故事 ②春节的故事 ③元宵节的故事 ④二月二的故事 ⑤端午节的故事 ⑥七夕的故事 ⑦中秋节的故事 ⑧腊八节的故事 の8故事を描いている。以下に日本で比較的馴染みの深い伝統行事を取り上げてみる。

1 幼児教育現場で馴染みのある伝統行事

(1) 端午节的故事



很久以前，在中国的土地上有许多小国。其中有个楚国，楚国有个大臣，名叫屈原。楚国旁边有个秦国。秦国有统一天下的野心，把楚国当做最大的敌人。

屈原向楚王提出许多治理国家的好主张，可楚王就是不听，屈原非常伤心。



昔々、中国には小さな国がたくさんありました。その中の楚という国には屈原という大臣がいました。楚の国の隣には秦という国がありました。秦は楚を最大の敵に回し天下を統一しよ

うという野心がありました。屈原は楚王に、国を治めるための数々の素晴らしい政策をアドバイスしましたが、楚王は屈原の話聞き入れず、屈原の心は大変傷つきました。

㊦ 很久以前とは㊥の時代の話である。楚とは今から約2300年ほど前、周、春秋、戦国時代にわたって存在した王国であり、現在の湖北省（武漢市を省都とする）、湖南省（長沙市を中心とする）の辺りを指す。屈原は（前340頃から278頃）楚の国王の側近であり政治家でもあり詩人でもあり、人々の信頼も篤いものがあった。

后来，楚王中了秦国的奸计，罢了屈原的官，还把他赶出了京城。
屈原离开京城，来到了汨罗江边。他想到国家的前途，想到老百姓的苦难，心里难过极了。
他一边走着，一边悲叹：“长太息以掩涕兮，哀民生之多艰。”
汨罗江边的一位老渔夫认出了屈原，请他住在自己的茅棚里。



その後、楚王は秦国の陰謀により、屈原を失脚させました。屈原は都を離れ、べきら江の畔にきました。彼は国の前途を悲観し、民衆の苦難を憂え、深く悩みました。

「ああ、民衆はこの先どうなるのだろう……。」とぼとぼ歩いては悲嘆にくれました。

その時、べきら江の畔で一人の漁夫に出会い彼は屈原を自分の貧しい小屋に住ませました。

㊦ 汨罗江（べきら江）とは湖南省の北東部を流れる長江の右岸の支流である。長さは250km。洞庭湖に注いでいる。屈原が身を投じた伝説で有名である。

屈原眼巴巴的等待着来自京城的消息。他多想再回到楚王身边，为国家尽力啊！
屈原等啊，盼啊，可楚王总也没召他，逃难的百姓却越来越多了。
一天，屈原问一个逃难的老头儿：“京城怎样了？”老头儿颤巍巍的说：“唉，秦国得兵已经打进了京城。我们……已经亡国了！”



屈原は都からの知らせを今か今かと待ちわびていました。彼は再び王のもとに戻り楚の国のために力を尽くしたいと願っていたからです。しかし、楚王は再び彼を呼び戻すことはありませんでした。苦しい民衆もますます増えていきました。

ある日、屈原は一人の男に尋ねました。「都はどうなっているか？」男は震えて言いました。

「はい、秦はすでに都に攻め入りました。我々は……既に国を失くしました。」

听到国家遭难的消息，屈原万念俱灰。五月初五的晚上，屈原抱着一块大石头，一头扎进了汨罗江。

老百姓划着船去寻找屈原。可是，江水浓浓，屈原在哪里？人们划啊，划啊，月亮落下去了，不见屈原的影子。太阳升起来了，还是不见屈原的影子。



屈原は国の災難を聞き、打ちひしがれてしまいました。5月5日の夜、屈原は大きな石を抱え、べきら江に身を投じました。民衆は小舟に乗って屈原を探しました。しかし、水の色は深く屈原はどこに行ったのか分かりません。太陽が昇ろうというのに屈原を見つけることはできませんでした。

④「五月初五」とは旧暦の5月5日の事であり、この日、中国では粽を食べる習慣がある。粽は日本には中国から伝来したもので古代では「茅」の皮で包んでいたため「茅卷」とも言われた。他に有名なものとして「茅台酒」がある。

人们背伤的喊着屈原的名字，用苇叶包上燕热的饭团，扔进江里。“鱼儿啊，要吃就来吃我们的粮食把，不要去伤害楚原先生的身体啊。”人们悲伤的喊着楚原的名字，把雄黄酒倒进江中。



人々は屈原の名を呼びながら葦の葉に温かいご飯を包み、水の中に投げ入れました。「魚たちよ、我らが持ってきたこのご飯を食べてくれ。決して屈原先生の体を傷つけないように。」

人々は悲嘆にくれ屈原の名を呼びながらべきら江に雄黄酒を注ぎ入れました。

④雄黄酒とは硫黄を混ぜた酒で香気や薬性により邪気悪霊を払うことができると信じられていた。急に暑くなる季節の変わり目であるこの時期は、病気にかかりやすい時期でもあった。そのため旧暦5月を「毒月」と言い、厄除けや邪気払いをする習慣があった。この酒も薬用に飲まれていた。

“毒虫啊，喝了这酒，就乖乖的醉倒把，不要去咬楚原先生的身体啊。”

大家找了几天几夜，也没有找到屈原。男女老少，都悲伤的哭了。为了纪念屈原，人们把他投江的五月五初这一天定为端午节。

每年的这一天，人们都要吃用苇叶包成的粽子，喝雄黄酒。
在南方许多地方，人们还要赛龙舟。看！江上的龙舟，一只比一只威风。



「毒虫たちよ，この酒を飲んで酔っ払ってくれ，決して屈原先生の体を咬まないように。」
民衆は幾日幾夜も屈原を探しましたが，それでも見つかりません。老若男女は皆悲嘆にくれました。

こうして人々は屈原を記念し，彼がべきら江に身を投じたこの5月5日を端午節と決めました。

毎年この日，人々は葦の葉で包まれた粽を食べ，雄黄酒を飲みます。

南方の多くの地方では，人々はドラゴンレースをします。見てごらん下さい，どの船も威风堂々と戦っています。

⑨「端午の節句」の「端（duan）」とは「初まり」という意味があり「午（wu）」は「五（wu）」に通じ「端午」で「五月初めの五日」になる。

端午节包粽子，赛龙舟的活动，都是对屈原的纪念。屈原爱国家，爱百姓，人们永远不会忘记他。



端午の節句に，粽を食べたりドラゴンレースをしたりすることは，すべて屈原を記念することにつながっています。屈原は国を愛し，人民を愛しました。人々は永遠に屈原を忘れることはありません。

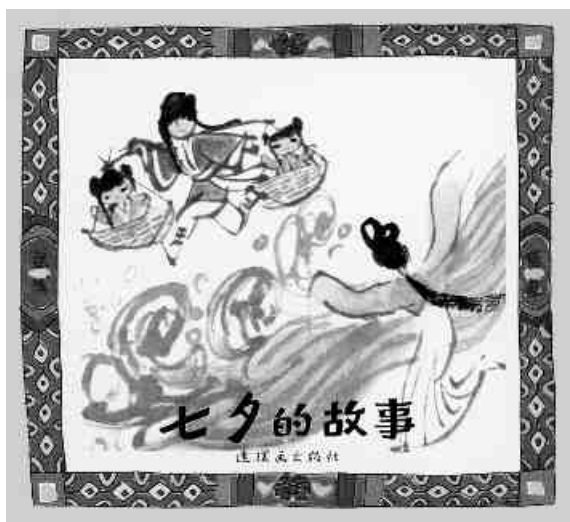
この絵本を訳しながら，「こどもの日」に食する「粽」の意味を初め，幼稚園教諭として行事の意味を気に留めず，5月5日が近付けば幼児とともに鯉のぼりを作り，歌を歌い，柏餅を食し……，等々慣例的に保育に取り組んでいたことに気付き，認識不足だった自分自身を大いに反省した。

屈原に纏わる端午節の伝説であるが，彼ら自身，自国の文化や歴史に誇りをもっていること，現在でも旧暦が日常の生活の中に生き，伝統的な文化を大切にしていること等が感じられる。

(2) 七夕的故事

昔々，大空には「織姫」と「彦星」という二つの星がいた。この二人は仲良しで遊ぶのが楽しくて仕事をせず毎日毎日遊んでばかりいた。とうとう天の神は怒ってしまい，自由に会えな

いように天に川をつくり二人を離した。しかしその後、彦星は懸命に牛の世話をし田を耕して作物を作り、織姫は機を織り美しい布を作り真面目に過ごした。その姿を見、可哀想に思った天の神は一年に一度だけ二人が会える日を作った。それが7月7日の夜である、これが幼稚園で子どもたちに語っていた話である。また、7月7日が近づくと折り紙で笹飾りを子どもたちと一緒に作り、五色の短冊に願い事を書き、大空に夢を馳せる楽しい行事である。織姫・彦星の話を楽しみ、夏野菜のトマト、ナス、キュウリ、スイカ、カボチャなどの作物をお供えし歌を歌って皆で一緒に祝う。空には天の川があり天の神がいる。その日は、織姫・彦星がカササギの背中に乗って天の川を渡り、一年に一度会える夜である。この日に願い事を短冊に書いて祈ると願い事は叶えられる。天では星たちもうれしくてお祝いをしている、等々幼児に理解できるように又、天上の世界に興味を持てるきっかけになるように保育をしてきた。ところが中国の「七夕的故事」を読んでいると日本での伝わり方といささか異なっていることに気付き興味深く感じた。



很久很久以前，有个小伙子，每天都上山放牛。大家看到他和那头老牛形影不离，就叫他牛郎。

牛郎的爹妈早没了，哥哥嫂嫂对他不好，整天让他吃剩饭剩菜，干苦活累活。

即使这样，哥嫂还要跟他分家。

老牛悄悄对牛郎说：“分家就分家，你什么都别要，就要我这老牛吧！”

牛郎答应了，带着老牛离开了家。



はるか遠い遠い昔のこと、毎日山に牛の放牧に行く一人の若者がいました。人々は若者と一

頭の老牛がいつも一緒にいたので彼のことを「牛くん」と呼んでいました。彼の両親は早くに亡くなったので兄夫婦は彼に冷たくし、毎日残り物のご飯を食べさせ、苦しい労働をさせていました。また兄夫婦は彼を家から追い出そうと考えていました。

この老牛はひそひそ声で彼に言いました。「追い出されても気にしないで！あなたは何も欲しがってはいけません。ただこの私だけをもって、連れて行きなさい。」

そこで彼は、この言葉を聞いて老牛と一緒に家を出て行きました。

有一天，※王母娘娘的女儿们偷偷飞到人间，想要痛快的玩一玩。王母娘娘的第七个女儿叫织女。她听到美妙的乐曲，走近一看，原来是牛郎在吹牧笛。织女对牛郎说：“我喜欢人间的生活，想跟你在一起，好吗？”牛郎也喜欢织女，毫不犹豫地答应了。他们请老牛做“媒人”，欢欢喜喜的结了婚。牛郎种田，织女织布，日子过的很美满。几年后，他们生了一儿一女。孩子长得很健康，又活泼又可爱。



ある日のこと、王母の娘たちは、楽しく遊んでみたいものと思い、こっそりと人間のところに抜け出しました。王母の七番目の娘は“織女”と言いました。

織女は美しい音色の調べに惹かれ近づいてみると、牛飼いが笛を吹いているではありませんか！織女は彼に言いました。「私は人間の暮らしが好きなの。あなたと一緒にいてもいいですか？」牛飼いは織女のことを好きだったので、ためらいもなく一緒にいることにしました。二人は老牛に“仲人”を頼み、結婚しました。牛飼いは田を耕し織女は機を織り、幸せな生活が流れていきました。数年後、一男一女に恵まれました。子どもたちはとても元気で活発、愛くるしい子どもたちでした。

⑩「王母」とは、中国で古くから信仰された西方の崑崙山上に住む女仙たちを統率する聖母である。女神の尊称、「王母娘娘」とも言う。幼児に語る「天の神」は男性のイメージがある。また、日本の七夕伝説では、「天の神」自体が中国の伝説ほど詳しく語り継がれていない。

しかし『たなばた』《こどものとも》傑作集（君島久子 再話 初山 滋 画：1963年7月1日こどものとも発行）では、かなり中国の伝説に忠実に訳されている。



谁知好景不长，王母娘娘派来的天兵找到了织女，要把她捉回天宫去。牛郎伤心地说不出话来，孩子们哭叫着：“妈妈，妈妈，你别走！”但是没办法，织女只能跟着天兵飞回天宫。



誰がこの暮らしも長く続かないと思ったことでしょう。王妃は織女を天に連れ戻そうと兵を派遣して探し出しました。牛飼いは余りにも悲しみが大きく何も話せません。子どもたちは「お母さん、お母さん、行かないで！」と泣き叫びました。でも、なす術はありません。織女は兵隊と一緒に天上に帰るより他ありませんでした。

牛郎挑起箩筐，担着两个孩子去追织女！老牛说：“他们在天上飞，你在地下跑，怎么追得上呢？”他摘下头上的角，交给牛郎。

牛郎跳着孩子，把牛角往空中一扔。牛角立刻变大了，像一只弯弯的小船。牛郎踏上小船，忽地飞了起来。追呀，追呀，牛郎终于追上了织女。孩子们一下子扑上来抱住了妈妈。

狠心的王母娘娘看见了，她冷笑一声，拨下头上的簪子，向空中一划……



牛飼いは二人の子どもたちを籠に入れ、織女を追いかけました。牛は言いました。「彼らは天を駆けている。あなたは下界を歩いている。どうして追いつくことができますか？」

そこで牛は頭の角を抜いて牛飼いに渡しました。牛飼いは子どもたちを担ぎ、牛の角を空中にはおり投げました。すると角はたちまち大きくなり、小舟になりました。牛飼いはそっと小舟に乗ると忽ち飛び始めました。追いかけて追いかけて、とうとう牛飼いは織女に追いつきました。子どもたちはお母さんに飛びつきました。

意地悪な王母は織女を見て冷たくあざ笑うと頭の簪を抜いて空中に投げ付けました。

牛郎和织女之间立刻出现了一条大河！织女和孩子们都哭了，牛郎愤怒地说：“就是一勺一勺地舀，我也要把河水舀干！”这时，数不清的喜鹊飞了过来，在河上搭起了一座鹊桥。一家四口在桥上团聚了！

你看，银河两侧闪闪发光的牛郎星和织女星，那就是他们的孩子。



牛飼いと織女の間にはたちまち大きな川ができました。織女と子どもたちは泣き、牛飼いは怒って言いました。「よしっ、俺だってこの川の水を柄杓で掬い上げてカラカラにしてやる。！」

この時、数え切れないぐらいのカササギが飛んで来て川の上に橋を架けました。

4人が橋の上に揃っています。見てごらんさい、銀河の兩岸で光っているのが牽牛星と織女星、牽牛星の側には小さな星も輝いています。これは彼らの子どもたちの星です。

以上のように、織姫・彦星を主として展開する「七夕伝説」は大変にロマンチックで美しい物語である。日本の「七夕まつり」はまさしく中国から伝来したものであるには違いない。ただ一般的に知られている話は「織姫・彦星」の二つの星の物語であり、子どもが出てきたり牛が活躍したりの話はあまり知られていない。

織姫・彦星とは夏の東の空に見える星、ベガとアルタイルのことで、ベガとはこと座の一等星（織女星）アルタイルとはわし座の一等星（牽牛星）のことである。

七夕の歌にも歌われている「五色の短冊」とは、赤・青・黄・白・黒（紫）のことで、中国の陰陽五行説という思想から来ているという説もある。一方、日本では『古事記』に登場する「棚機女」の信仰と芸能などの習い事を願う中国の行事とが交じり合ってきたものとする説がある。

日本では江戸時代、古来の穢れをはらう清めの行事として「七夕送り」といい翌日に笹飾りを海や川に流す習わしがあった。このことは精霊流しにも通じる日本の「水に流す」意味が関係しているのではないだろうか？現代では各戸口に笹飾りを飾ったり、七夕送りをすることなど無理ではあるが、日本の幼児教育の現場では必ず「七夕」の行事を行い、現代では家庭であまりすることのない美しい伝説の謂れを幼児に伝承することを大切にしている。ところが中国では、あまり「七夕」の行事を取り上げていないようである。「七夕」の行事に関しては中国から伝来したものを、日本流にアレンジして残している。

また幼児に語る「天の神」は男性のイメージがある。そして日本の七夕伝説では、「天の神」自体が中国の伝説ほど詳しく語り継がれていない。

2 中国で大切にされている伝統行事

(1) 春節的故事

中国では、春節・元宵節・端午節・中秋節の4つが四大祭とされている。中でも春節は中国や台湾、シンガポールなど中華圏の国家で最も大切にされている旧正月の事である。



很久很久以前，有一只凶恶的怪兽，名字叫“年”。它到处乱跑，糟蹋人们养的鸟，牛，羊，猪，狗，鸡，还伤了很多入。

天神决定惩罚“年”。她把“年”锁进深山，一年只准它出来一次。



昔々、「年」と呼ばれている凶暴な生き物がいました。人々の大切な鳥，牛，豚，犬，にわとり，そして人をも傷つけます。天の神は年に罰を与え，山奥につなぎ，一年にたった一度だけ出て来れるようにしました

可“年”到底哪天出来呢？老百姓不知道，整天提心 胆的。一天一天过去了，“年”没有来一月月过去了，年没有来。直到腊月的最后一天，年来了！

哎呀，它还是那么凶昂！见羊朴羊，见狗咬，见了人，瞪着大眼就要吃人！全村人聚到一起，商量办法对付年。大家想啊想啊，终于想出了一条妙计！



でも年はいつ出て来れるのでしょうか？みんなは分かりません。ずっと気をもんでいました。日がどんどん過ぎましたが年は現れません。ひと月も過ぎました。年はまだ出てきません。

12月の最後の日です。年が現れました！

あれ～っ！やっぱりあんなに乱暴です。羊をみれば羊を襲い、犬をみれば犬に咬みつき、人を見れば今にも人に襲い掛かろうとします。

村の人たちはみんなで集まり、年をやっつける何かいい方法はないかと相談しました。

みんなは考えて考えていいアイデアを思いつきました！

以后，每到腊月，人们就赶紧做好准备：粮进仓，菜装坛，鸡进窝，牛回圈。
备刀枪，练弓箭，准备对付“年”。时间一长，大家摸透了“年”的脾气，发现它最怕鲜红的颜色。
它还特别怕火光，怕响声——这就好办了！



それからというもの人々は毎年12月になると穀物は蔵に入れ、食料は瓶に詰め、にわとりは禽舎に入れ、牛は柵の中に入れしっかりと準備をしました。

刀や槍、弓矢の稽古をして年に備えました。暫くたってから、みんなは年が真っ赤な色、特に光、音を一番怖がることを突き止めました。——これだッ！

腊月到了头，“年”来了。左一看：家家门上贴红纸，纸上都是它不认识的方块快，吓得它直哆嗦。
右一看：户户灯火通明，荷火灯，兔子灯，大红灯笼挂当空。吓得他直叫唤！妈妈们在厨房里忙碌，
孩子们在客厅里玩耍。鞭炮声声响，噼噼啪啪，噼噼啪啪！



12月になると年がやってきました。左を見ると、家の門口には赤い紙が貼ってあります。紙は全部四角くて年の知らないものばかり、ブルブル震えさせるようです。右を見ると、家の明かりは蓮の提灯、兎の提灯、大きな提灯が吊り下げられています。年が叫び続けるように威嚇しています。

お母さんたちは台所で忙しそう。子どもたちは部屋で賑やかに遊んでいます。爆竹のパンパンパンパンという音が聞こえてきます。

锣鼓震天动地，人们又唱又跳。“年”吓坏了，赶紧逃跑！“年”跑回了深山，再也不敢出来了。
“年”不见了，“过年”的风俗却保留了下来。腊月的最后一天，家家都要准备丰盛的年夜饭。

大年初一，家家贴上喜庆的春联，亲朋好友互相拜年，小孩子放花放炮。农历年过去，春天就要来了。



どらや太鼓が天地に響き渡ります。人々は歌ったり踊ったり楽しそう！年は怖くて怖くて慌てて山に帰っていきもう出て来なくなりました。年は現れなくなりましたが「年越し」の風習は残りました。

12月の最後の日、みんなは美味しい夜食の準備をします。

お正月、お家の戸口にはおめでたい春の飾りが貼られ、親しい友人たちは互いにお正月のあいさつをし、子どもたちは花火をします。農暦のお正月が過ぎ春がやってきます。



本来、深い意味のある春節であるが、幼児が分かりやすいように“年”という猫でもなく狼でもなく犬でもない動物を登場させユーモラスに表現している。現代の日本がそうであるように中国においても昔からの風習や習慣は薄れつつある。

今では春節も大型連休の意味をもつだけかもしれないが暦では春を迎える意味のある節季を子どもたちに伝えることは大切である。

(2) 元宵节的故事故

元宵節とは旧暦の1月15日であり日本における「小正月」にあたる。この日を祝う風習は2000年ほど前の漢の時代に始まったとされる。現代では、人々は元宵団子を食べたり色とりどりの提灯を灯して盛大にお祝いをする。元宵の元は1月、宵は夜の意味で旧暦1月15日は新年最初の満月の夜である。



东方朔是我国古代汉武帝时期的官员。他很有学问，头脑非常灵活。有一年腊月，东方朔在御花园里游玩，发现一个宫女正在井边伤心的哭。东方朔赶紧跑过去，问她为什么这么难过。这个宫女叫元宵。她来到皇宫好几年了，非常思念家人，但又不能回家，真觉得生不如死。东方朔安慰她：“姑娘，别难过了，我想办法让你见到家人。”



東方朔は我が国の漢武帝の頃の官吏でした。彼は学問があり頭も素晴らしく切れる人でした。或る年の12月、東方朔が庭にいると一人の女性が悲しげに泣いているのを見つけました。彼はその女に駆け寄り、なぜそんなに泣いているのかを尋ねました。この女性は元宵と言います。元宵はここに来てもう何年にもなります。家族が恋しくて堪りませんが、家には帰ることができず辛くて死にそうでした。東方朔は「娘さん、そんなに泣くのではない。私があなとの家族と会える方法を考えてあげるよ。」と彼女を慰めました。

东方朔来到元宵姑娘家中，对元宵的家人说：“我有个主意，能让元宵和你们团聚。”他仔细嘱咐元宵的妹妹，告诉她应该怎么做。随后，东方朔打扮成一个算命先生，来到街头：“我夜观天象，京城要有一场大火灾！”老百姓纷纷求他化解灾难。东方朔说：“正月十三，有人骑黑马，穿红衣，从南边过来，那就是火神君。大家要跪在路边苦苦求他，全城才能得救。”



東方朔は元宵の家に来て家族に言いました。「私には元宵をあなたたちに会わせる良い考えがある。」彼は元宵の妹にどうするべきか、よく言い聞かせました。そして東方朔は一人の占

い師に扮し街にやってきました。「今夜、街で大火があるぞ！」人々は次々にどうすれば災難から逃れられるか、彼に救いを求めました。東方朔は「正月十三日に南方から、紅い着物を纏った男が黒い馬に乗ってやってくる。この男こそが火の神だ。みんなは道端に跪いて彼に苦難を訴え救いを求めよ。こうすれば街は全て救われる。」

老百姓照东方朔的话去做。天快黑的时候，火神君真的穿着红衣，从南边骑马而来。大家跪在路边向火神君求情。火神君扔下一封信，说：“火烧京城是玉皇大帝的旨意！你们把这封信送到皇宫，交给皇帝，或许能免去这场灾难。”有人拾起信，连夜送进了皇宫。信上写着：“正月十六，火烧皇宫；要想消灾，汤圆花灯。”皇帝不明白是怎么回事，请来东方朔给他出主意。东方朔听了事情经过，对皇帝说：“听说火神君爱吃汤圆。正月十五那天，多让百姓做汤圆，扎花灯，求玉皇大帝和火神君不要降灾。”



人々は東方朔の話聞きその様にしました。夜も暮れた頃、火の神は本当に紅い着物を纏い黒い馬に乗って南の方からやってきました。民衆は道端に平伏し火の神様に窮状を訴えました。すると火の神は一通の手紙を投げて言いました。「街の火災は玉皇大皇の命令だ！皆の者はこの手紙を城に持っていき皇帝に渡すがよい。そうすればこの火災は逃れられるかもしれない。」

ある者が手紙を拾い夜を徹して城に駆け付けました。

手紙には「正月十六日、城に火災が起きる。火を消そうと思えば、団子とランタンだ。」皇帝は何の事だかさっぱり分からなかったもので、東方朔を呼び彼の考えを聞きました。

彼は事の成り行きを聞き、皇帝に言いました。「聞くところによると火の神は団子が好きです。正月十五日のその日、民衆に団子を作らせランタンを吊るして玉皇大帝と火の神に災難を起こさないようお願いするのがいいです。」

皇帝听了，立刻让人传令：不管宫里宫外，大家都要多做汤圆，多扎花灯。元宵姑娘是做汤圆的能手。

东方朔嘱咐她，让她扎一盏大大的花灯，写上自己的名字，字要写的大大的，让人一眼看得见。

正月十五这天，皇帝用元宵姑娘做的汤圆，供在火神君的画像前，求神仙保佑百姓平安。



皇帝はこの話を聞くと直ちに命令を下しました。そして城の内外で、民衆は団子を作りランタンを灯しました。元宵は団子作りが上手でした。そこで東方朔は彼女に大きなランタンを吊

るし、そこに誰にでも分かるように大きな文字で自分の名前を書くように言いました。正月十五日のこの日、皇帝は元宵の作った団子を火の神の肖像画の前に供え、民衆の平安を神に祈りました。

到了晚上，全城百姓都上街看花灯。元宵提着自己扎的花灯，也走在人群里。元宵的妹妹搀扶着爸爸妈妈，也来到街上看花灯。她走着走着，忽然看见远处有一盏大花灯，上面写着姐姐的名字。妹妹大声喊：“元宵姐姐！元宵姐姐！”元宵听见喊声，连忙跑过来了。见到日夜思念的亲人，元宵激动的哭了起来。一家人都很感激东方朔。妹妹说：“东方先生的主意真好，让我装扮成火神君，咱们才能全家团聚！”



夜になると、人々は街にランタンを見に行きました。元宵も自分のランタンを持ち人々の群れの中にいました。元宵の妹も両親と一緒に街にランタンを見に行きました。彼女はどんどん歩いていくと突然遠くに姉の名前の書かれた大きなランタンを見つけました。妹は大声で叫びました。

「元宵姉さん，元宵姉さん！」元宵は叫び声を聞き駆け寄りました。

夜も昼も思い続けた人と会えたなんて，元宵は感激のあまり泣き出しました。

元宵の家族は東方朔に感謝しました。妹は「東先生の火の神に扮して私たちを会せてくれるなんて，なんて素晴らしいお考えなのでしょう。」と言いました。

百姓闹了一夜花灯，京城平安无事。皇帝十分高兴，下令第二年正月十五照样做汤圆，扎花灯，庆贺太平。

这个风俗一年一年传下来。因为正月十五上供的汤圆是元宵姑娘做的，所以汤圆从此也叫“元宵”，正月十五就叫做“元宵节”。正月十五闹花灯的习俗也传了下来，人们在这一天展花灯，猜灯谜。

所以，元宵节也叫“灯节”。



民衆はランタンを灯し街が平安であることを願いました。皇帝は大変喜び，翌正月十五日には団子を作りランタンを吊るし太平を祝うように命令を下しました。

こうしてこの風習はだんだんと伝えられていきました。何故なら正月十五日に奉げられる団子は元宵の作ったものなので「元宵」とも言い，正月十五日のこの日を「元宵節」とも言います。

この日に賑やかにランタンを灯す習慣も同じように伝えられました。

人々はこの日、ランタンをいっぱい吊るし、そこに書き付けた謎を解きます。だから元宵節のことを「ランタン祭り」とも言います。

㊦この日、人々は春の到来を祝って提灯に明かりを灯し、月を眺め、提灯に貼られた謎々を楽しむ。

今でもこの日には「汤圆」と言って「圓い」=「円満」という意味で団子を食べる習慣がある。また、日本でも長崎に「ランタン節」がある。

○おわりに

4作の絵本を訳してみて「中国の伝統行事」には、暦はもちろん人間の感情や生活が深くかわっていることが分かる。もっとも幼児向けの絵本であるから分かりやすく描かれていると思うが、そこには庶民がいたり、皇帝が登場したり、偉人がいたり悪者がいたり神がいたり、動物がいたり……と起承転結、ワクワドキドキする話があり、勧善懲悪の思想も含み、誰の気持ちにもすんなりと受け入れられるものである。ある時には天界を駆け巡り、深い山奥を想定し、あるいは街中が舞台であったり幼児には興味深い物語であろう。

日本では馴染みのある「端午節」「七夕」などは自国流にアレンジされ今に伝わっている。端午節の鯉のぼりも武者人形も中国よりも歴史が新しい。しかも雛祭りに対し「男子の節句」としている。

粽は粽でも中国で食べる物とはいささか異なる。中国にはない「柏餅」を食べる風習があるのも興味深い。七夕も中国の幼稚園では笹飾りを作って祝う保育は見たことがない。これも日本独自の伝統行事の伝え方であろう。

日本も中国もそれぞれの歴史があり文化がある。よく似た伝統行事には驚きもするが、独自の伝わり方や伝え方をしている。両国の良さを互いに学び合えば、幼児にとってより意義深い教育ができるのではないだろうか。これからも「古の文化」に触れていきたいと思う。また、古代より日本人は中国に学ぶことが多かったと思うが、日本独自に作ってきた文化を誇っていると思う。一方、中国もこんなに素晴らしい文化を大切に守ってほしい。

今や世界中が共存共栄する時代であるだろう。未来を担っていく子どもたちには、自国の文化のよさ、外国の文化のよさに触れ、どんどん視野を拡げて大きな見地から物事をみれるような人間になってほしいと願う。

〈参考文献〉

『中国传统节日故事』（可南／文，马得 朱成 刘 大为等／图）

「彩绘本·中国传统节日故事『不是方的，不是圆的』」（郑 春华／文 陈舒／图）

『新华字典』·『简明汉日词典』

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E7%8E%8B%E6%AF%8D>

<http://tanabata777.com/yurai/tanabatatume.html>

<http://www.pleasuremind.jp/COLUMN/COLUM117B.html>

<https://kotobank.jp/word/%E9%9B%84%E9%BB%84%E9%85%92-1430707>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%A5%E7%AF%80>

<http://www.yakuzenro.jp/room/jijyo/genshou-setu.htm>

<http://200k.work/ky2016021001773-post/>